

様式 14 (対象事業：1. 子どもを対象とした事業及びその開発にかかる事業)

事業名：美術館大作戦 4

RIC アートカプセル 2007

—未来へ続くアートな散歩道—

事業者名：神戸市立小磯記念美術館

連携事業館名：神戸市立六甲アイランド小学校、

神戸大学発達科学部他

住所：神戸市東灘区向洋町中5丁目7

TEL：078-857-5880

FAX：078-857-3737

HPアドレス：[www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koi-so\\_museum/](http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koi-so_museum/)



①施設概要

神戸に生まれ、神戸で制作を続けた洋画家小磯良平の没後、油彩・素描・版画などの約2,000点の作品が、アトリエ・蔵書・諸資料と共に、遺族より神戸市に寄贈されたことにより平成4年11月に開館。

美術館は、21世紀の海上文化都市六甲アイランドの緑豊かな公園内にあり、3つの展示室のほかに、小磯良平のアトリエも移築、復元されている。

開館以降、小磯良平の偉業を顕彰し、作品の収集、保存、調査研究、普及活動を行っている。

②事業の意図目的

美術館教育普及事業「美術館大作戦」の一つとして、子どもたちが芸術家との交流を通して感性を育む機会を提供する。今年度はさらに大人を含めた地域住民とも幅広くアートを通したコミュニケーションを図ろうとするものである。地域と一体となった事業へのバージョンアップにより、歴史の浅い六甲アイランドにおいて、美術館が地域の文化拠点として成長していくことをめざす。

③事業概要

●地域を耕す事業

○地域独自の素材「木製パレット」を使い、子どもや地域住民にも直接アートに参加してもらう「メイド・イン・六甲アイランド」を展開した。

○「愛ラン灯」制作、「灯りの散歩道」により、地域意識を高める活動を実施した。

○スタッフやアートストリートギャラリー出展を地域からも公募し、アーティストやスタッフとして主体的にアートカプセルにかかわる場を提供し、美術館と地域との関係を深める機会とした。

●子どもを耕す事業

○地域の学校と連携して、「アーティスト・イン・スクール」や美術館大作戦4スペシャルでアーティストとの交流で感性を深める取り組みをおこなった。

⑥事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他 ( )

作成した報告書等

冊子 美術館大作戦 4 RICアートカプセル2007—未来へつづくアートな散歩道—図録—

⑦参加者状況

参加者人数 延べ約3,100人

内訳 当日参加者：2,049人 事前イベント参加者：1,070人

## (1) 事業の実施状況について

### ア、「地域を耕す」事業

#### ◆『メイド・イン・六甲アイランドプロジェクトチーム』の設置

招聘作家と美術館スタッフによる（プロジェクトチーム）を設置し、六甲アイランド産にこだわったアートの展開を探っていった。地域をリサーチし、六甲アイランドならではの材料やまちづくりの課題なども話し合った。自治会や地域振興会とのまちづくりワークショップに参加し、地域の方の意見も聞きながら、まちに対する思いを共有した。臨港地区にある物流企業から木製パレット約 800 枚を借り、アートカプセル当日、招聘作家によるアートを参加していただいた地域の方々とともに、創りだすことができた。これは全体のモニュメント的な存在として、皆が集う場となった。

プロジェクトメンバー 7 名

会議 9 回

#### ◆『灯りの散歩道』の開催

##### ・「灯りの展覧会」

オープニングイベントとして、地域の小中学校・高等学校・外国人学校の児童・生徒たちが「わたしのすきな〇〇」をテーマに製作した約 1000 個の灯りを会場に並べ、来場者のコミュニケーションを図った。

制作期間：9/6～10/20

参加：学校 9 校 770 人 当日ワークショップ参加者 100 人

参加アーティスト 40 人

##### ・ミュージアムナイトコンサート

「灯りの展覧会」の灯りを見ながら美術館内でロシアの古曲を中心に、アコーディオンの不思議な調べの演奏会を行った。

実施日：10/20

演奏者：ゆうこ

参加者：100 名

#### ◆『アートストリートギャラリー』の開催

リバーモール北側の緑道を会場に、招聘作家、推薦作家、一般作家（地域の学校を含む）が「たがやす」をテーマから生み出された作品を展示、パフォーマンス、来場者が自由に参加できるワークショップなどを行った。スタッフやアートストリートギャラリー出展を地域からも公募し、アーティストやスタッフとして主体的にアートカプセルにかかわる場を提供し、美術館と地域との関係を深める機会とした。小磯記念美術館の作品鑑賞ツアー「びじゅつと話そう」を盛り込み、美術館とイベントも関連づけた。

実施日：10/20 10/21

出展作家：28 組

参加者：1,835 人



#### イ、子どもを耕す事業

##### ◆『アーティスト・インスクール』の開催

事前に学校に出かけて開催した。学校と美術館の連携事業として児童がアーティストに直接かかわり、カラダを通して友達を感じたり、自分の体に気づくワークショップをおこなった。

テーマ：「カラダ感じる キモチたがやす」

実施日：10/4・10/11

講師：砂連尾 理 氏

参加：神戸市立六甲アイランド小学校 5 年 160 人

#### ウ、『美術館大作戦4スペシャル』

アートカプセル当日、当館の教育普及事業の「美術館大作戦」スペシャルとして、アーティストを招き、子どもとダンス系アーティストとのコラボレーションによるアート・ストリート・ギャラリーの会場で、周囲とコミュニケーションしながら行進した。

テーマ：「踊るカラダ 大行進」

実施日：10/20・10/21

講師：松本 芽紅見 氏

家族単位で募集 51 名参加

#### (2) 地域との連携について

地域の小中学校、高等学校や外国人学校、専門学校、神戸大学発達科学部、自治会、地域振興会などと密接に連携を図ることで、子どもたちだけでなく地域の方々（外国人居住者を含む）にも身近にアートに触れる機会となった。とくに、六甲アイランドにたくさんある輸入用の木製パレットを使った提案は、地域振興会や地元企業の積極的な参加を得て初めて開催した事業であり、新たなコミュニケーションのひろがりにつながった。

#### (3) 成果物について 特になし

#### (4) 参加者の反応

今回の事業は、様々な人が絡まり合って進められた。全てを紹介できないので、以下の通り簡単に述べる。

##### ア、アーティスト・イン・スクール（事前ワークショップ）

###### ■ 参加児童

- ・もっとやりたい。
- ・体の動きを工夫してがんばった。
- ・友達と協力して楽しめた。

###### ■ 担任の先生方

- ・子どもたちの生き生き活動している様子を見て、アートを学校の活動の

中で生かしていきたいと思った。

- ・思っていた以上に身体表現のおもしろさにびっくりした。

イ、 アートストリートギャラリー参加作家

- ・地域に密着した感じがよかった。アーティストが集まる場が、わざわざ足を運ばなくてもアートに触れられたり、いつもの風景が少し違って感じたりできるなど生活の場に入り込むという点がよいと思われる。
- ・来場者の間に垣根がなく、作品を通して交流を楽しめる場だった。子どもとの距離が近いのがよかった。
- ・子どもたちとモノづくりすること、子どもたちに発見してもらい自分達も何か発見できれば素敵だと思う。
- ・「六甲アイランド」という場所やそこに住む人々にも様々な問題意識をもつことができた。
- ・六甲アイランドにこだわった企画になった。特に臨港地区の企業からのパレットを素材にした作品は新しい発見と地域を結ぶものとして今後も続けていきたい。だんだん定着してきているのもっと大人の方もまきこみたい。

ウ、 ワークショップ参加者

■美術館大作戦4 スペシャル「踊るカラダ 大行進」

- ・からだひとつで遊べるんだ・・・と思いました。普段、自分の体なのに意識してない部分の多いこと・・・
- ・体を動かすのに、決まった場所はいらないんだと思いました。
- ・室内から外にでると、気分も変わって、気持ち良かった。子供達と参加でき、とても楽しそうにしている姿を見れてよかった。
- ・なにげなくうごかしている“からだ”も意識して動かしてみたり、他の人のからだを持ち上げてみたりすると、いろんな発見がありました。家でまた子供と一緒にやってみたいと思います！
- ・かたちのうごきとかをやってとってもたのしかったです。またやりたいです。あとこうえんでバランスをとってすごーいほんとうにたのしかったです。つぎはおじいちゃんおばあちゃんをつれてきたいです。
- ・イメージを思いうかべて踊るだけでなく、街にくり出して、目で手で体全体で、いろいろなことを感じながら踊るって、より心がほぐれて気持ちのいいものだと思います。一つの表情だけではもったいないですね。
- ・かたまったり、絵をかいたり、おもしろかった。とまったりうごいたりしておもしろかった。子供の感性っておもしろい。と思いました。親の姿勢も大事だとかんじてます。
- ・止まることっておもしろい！！時間が止まってるようでした！！やっていてすごくきもちよかった！
- ・今回参加できて、子供の違う一面を発見しました。体を動かすことで、笑顔が増えたことに感動しました。ありがとうございました。
- ・体をたくさんうごかして歩いたり手のひらでくうの中に絵をかいたりし



- てすごく楽しかったので、次のアートカプセルにもさんかしたいです。
- ・カンタンな動きなのに“おもしろい”。人の身体っておもしろいなあと参加して感じました。

■ 当日参加者

- ・日頃、話せない友達と沢山話せました。
- ・制作意欲がわいた。
- ・もっともっと仲良くなった。
- ・よいところが人にはいろいろある。
- ・物をじっくりみること。
- ・年齢関係なしに楽しめた。
- ・新しい発想はまだまだあると感じました。
- ・身近な所にアートはいっぱい。
- ・アートな発想を大切にしたい。
- ・子供がらくがきをしたがる気持ちが発見できた。
- ・ゆったりした時間をすごせた！
- ・いろいろな方とのふれあいができた。
- ・それぞれの感じるままに見てもいいということがわかった。
- ・子供の笑顔が見れました。のびのびできました。
- ・主人の見方にちょっと変化がありました。
- ・美術はすごい楽しいことだと思いました。
- ・楽しい気持ちで生活をおくります。
- ・ゆっくりと自然にいろいろなことを見る事が出来るようになった。

■ 地域・企業の方

- ・荷物を運ぶだけのものだとは思っていなかった「木製パレット」が作家さんの手にかかるとすごい作品になったのに驚いた。子どもたちもとても喜んでいたのでうれしい。会社にもどってこの様子を写真掲示します。
- ・新しい試みで参加したくなった。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

ア、六甲アイランドのよさを見直すことができた。

子どもや自治会、企業と関わることにより、アートをまちづくりの視点からとらえ、地域づくりのきっかけになり、地域の核としての役割につながりつつある。

イ、アートに触れる機会として定着してきており、楽しみにしている子どもが増加した。

・学校での事前イベントも子どもたちが興味をもって取り組むことができた。

ウ、作品鑑賞の楽しみ方に広がりを見せ、美術鑑賞のよさを体感し、必要を感じる大人（教員、保護者、学生）が増加した。

・作品をじっくり見て、聞いて、話すことや作家のワークショップに参加することで、受動的な鑑賞から主体的な鑑賞のよさを提供することができた。

エ、アートを通して地域の自治会や企業と協力し、新たな地域のつながりを生み出

すことができた。

- ・地域ならではの材料（木製パレット）を物流企業から提供していただき、地域ならではの材料を使ったアートを創り出し、地域の方のつながりが深まった。とくに、生活居住地域と企業地域の相互理解もはかる上で意義があった。

## （6）新聞記事等

読売新聞 平成 19 年 10 月 21 日（日）朝刊

# 子どもらアートに挑戦

小磯記念  
美術館周辺  
芸術家30組の作品も展示

若手芸術家と子どもたちが一緒にアート作品を作るイベント「アートカプセル」

（読売新聞大阪本社後援）

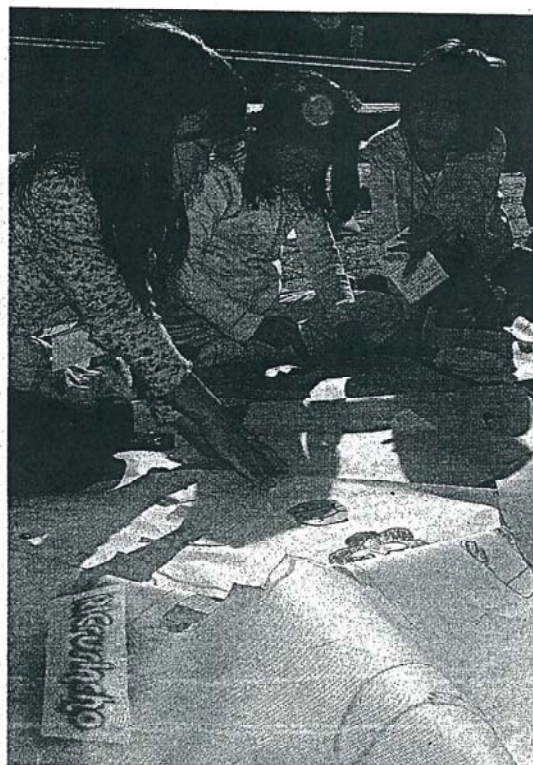
が20日、神戸・六甲アイランドの市立小磯記念美術館周辺で始まった。親子連れらでにぎわう遊歩道には、30組の作家のユニークな作品などが並んだ。21日まで。

芸術に親しみながら、住民同士の交流を深めてもらおうと同美術館が5年前から企画している。

今年六甲アイランドのオープン20年を記念し、臨港地区で利用される木製パレット800枚をやぐら状にくみ上げた作品のほか、遊歩道では、大学生グルー

プがポンチョやマントによる作品作りを指導。大勢の子どもたちがペンやはさみを手にとっていた。

ポンチョにハート形の布を飾り付けた市立向洋小5年、岩佐美紅さん（11）は「ピンクの色がかわいい。頑張って仕上げて、部屋着にしたい」と笑顔を見せていた。



ポンチョに絵を描く子どもたち（神戸・六甲アイランドの市立小磯美術館周辺で）